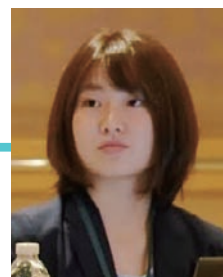




アジア・太平洋電気通信共同体 (APT) 第43回管理委員会の開催結果について

総務省 国際戦略局 国際協力課 **伊藤 未帆**



1. はじめに

アジア・太平洋電気通信共同体 (Asia Pacific Telecommunity: APT) は、主にアジア・太平洋地域における電気通信及び情報基盤の均衡した発展を目的として1979年に発足した国際機関 (本部: バンコク) であり、研修やセミナーを通じた人材育成、標準化や無線通信等の地域的政策調整等を行っている。現在の加盟国数は加盟国38、準加盟国・地域は4であり、賛助加盟員 (民間企業等) は2019年12月時点で136となっている。

事務局は、事務局次長の近藤勝則氏 (日本) その他職員23名で構成される。

APTでは、年に1回、次年度業務計画案や予算案等について審議するための管理委員会が開催されている。

この度、APT第43回管理委員会が、12月10日～13日までの間、タイ (バンコク) において開催されたので、その結果概要を報告する。

2. 第43回APT管理委員会 (MC-43) の概要

2.1 開催期間及び場所

2019年12月10日 (火) から13日 (金) (9日 (月) にAPT活動を報告するセミナー等を開催) にタイ (バンコク) で開催された。

2.2 参加国等

APT加盟国 (日本、中国、韓国、タイ、シンガポール、オー

ストラリア等24か国)、準加盟国 (香港、マカオ)、賛助加盟員 (TTC (ASTAP議長: 前田氏)、ARIB (AWG議長: 佐藤氏)、KDDI、KDDI財団、ファーウェイ、GSMA (GSM Association) 等) 等から、約120名が出席した (日本からは西村国際交渉専門官等が出席)。

3. 主な審議概要・結果

Ms. Areewan Haorangsi事務局長及びMr. Lee Sanghun (韓国) 議長から開会の挨拶があった。プレナリーでは日本を含む14か国からステートメントが発表された。日本からは西村国際交渉専門官より、APTの40周年記念を祝うとともに、最大分担金拠出国として、引き続きAPT活動に貢献する旨を述べた。なお、副議長はMr. Charles Chew (シンガポール) 及びMs. Lindl Rowe (オーストラリア) の2名。

管理委員会では、4日間にわたり2019年に実施されたAPT域内における無線通信、標準化、ICT開発に係る活動及び会計報告並びに2020年次の業務計画及び予算案等の審議・承認が行われた。

なお、管理委員会の前日 (9日) に開催されたAPT活動を報告するセミナーでは、2019年のAPT活動の結果及び進捗状況が紹介された。

3.1 2020年業務計画

事務局から、通常予算による定例的なプログラム、我が



写真1. ステートメントを発表する西村専門官



写真2. 第43回APT管理委員会の出席者



国からの拠出金による人材育成プログラム、2020年の総会に向けた総会準備委員会の設置等の説明が行われ、審議・承認が求められた。主な審議の結果は下記のとおり。

(a) APT人材育成プログラム

2019年の報告に対して、ブータンからAFIS (APT Frequency Information System) の研修内容を情報共有してほしいとの要望があり、事務局はAFISのセットアップ方法をYouTubeに載せる等の方法を検討中であり、引き続き加盟国の支援方法を検討すると回答した。また、パラオからは賛助会員と事務局が協力して研修を提供する方法について質問があり、パキスタンからはオンライン研修用のプログラムを事務局に提供できる旨のコメントがあった。これに対して事務局は加盟国、賛助加盟国、事務局が協力して研修を提供することが重要との回答があった。

(b) 2021–2023年のAPT戦略計画の準備

2020年の総会に向けた総会準備委員会 (CGSP) の設置及び作業計画等について審議・承認が行われた。総会準備委員会は2021–2023年のAPT戦略計画案を2020年の総会に提出することを役割としている。審議の結果、CGSPの設置が承認され、議長としてMr. Guolei Cai (中国) が任命された。

(c) APTと他の機関との覚書

事務局から、現時点の他の機関との覚書の一覧が示されるとともに、期限が到来した覚書について延長の是非等を検討することが求められた。

審議の結果、組織が消滅したUMTS Forums及びWIMAXの2機関を一覧から削除すること、IARU R3との覚書の期

限を延長することを決定した。また、ETSIとの覚書については、AWGとASTAPで協議し、必要性がある場合にETSIと交渉して覚書の修正を要請することとした。

CITELとの覚書については、管理委員会の直前に開催される管理委員会準備会合で協議することを前提に、CITELとの覚書について引き続き検討することとなった。

3.2 2020年予算案

APT事務局が作成した2020年予算案を審議・承認することが求められた。審議の結果は下記のとおり。

(a) 全体の収支額

事務局案は、収入が2,491,672米ドル、支出が2,724,085米ドルの赤字予算となっているが、支出額は定例会合の招致を希望する国が増えれば減少すること、また、第14回総会において承認された2020年の支出限度額2,729,645米ドルを下回っていること等を踏まえ、原案どおり承認された。

なお、中国から、支出額の精度を高めるため、定例会合の招致を希望する国は毎年管理委員会までに事務局にその旨を通知するよう提案が行われた。

(b) 特別拠出金

2019年の任意拠出金の収支状況に係る報告についての検討が行われた。加えて、事務局から、2019年の任意拠出金の収支状況について、各種APT活動の主催国による支援及び2018年会計年度における外部監査の結果も含め報告が行われ、特段の意見なく承認された。

事務局の報告後、我が国は国会承認を前提として、2020年度に拠出額を増額する用意があることを表明した。また、オーストラリア、中国及び韓国が拠出を継続する旨の表明を行った。議長は上記各国の財政支援に対して謝辞を述べた。

(c) 分担金単位数

2021年～2023年における分担単位数の見直しを検討した際には、事務局から、2021年以降にAPT財政は赤字が見込まれていることの説明があり、一般経済情勢（インフレ、為替レート等）を含め、分担単位数の見直しによるAPT財政への影響に関する各種データが提供された。

これに対して、各国から、国内で協議するために2020年の総会に先立って加盟国が検討すべき内容を事務局から情報提供してほしい、分担単位数の増額を正当化するための



写真3. 議長席の様子



議論が必要である等の慎重な意見が多く見られた。

これらの意見等を踏まえて、本件は次期総会の直前に開催されるCGSPにおいて再度検討することとなった。

4. その他報告

4.1 APT総会

3年に一度開催されるAPT総会が2020年に開催されること、日本、韓国及びパキスタンの3か国が誘致の意向を表明していた。

アリーワン事務局長は韓国及びパキスタンに対して、日本がこれまで総会を開催したことがないことを指摘しつつ公平性の観点から日本開催を提案し、両国がこれを受け入れたことから、管理委員会までに開催国の候補は日本に絞られた。

また、管理委員会の2日目の夜に、日本が開催したレセプションにおいて、寺田総務副大臣から、2020年のAPT総会の日本開催の意向を表明し、アリーワン事務局長からは日本の貢献に対する謝意と日本開催を歓迎する旨の意向が示された。

管理委員会において、アリーワン事務局長から次期総会を日本で開催することの提案が行われ、全会一致によって承認された。APT総会は2020年12月に開催予定である。

4.2 APT選挙

2020年のAPT総会において、APT事務局長及び事務局次長選挙が実施される予定であり、今回の管理委員会では選挙職を狙う候補者が立候補を表明する絶好の機会となった。

事務局長選挙に関しては、日本が管理委員会2日目の夜にレセプションを開催し、寺田総務副大臣から、日本として現職の近藤勝則事務局次長を次期事務局長候補として擁立することを正式に表明した。なお、管理委員会の開催期間中に、日本以外に事務局長職に立候補を表明した国はなかった。

事務局次長選挙に関しては、韓国が管理委員会初日の夜にレセプションを開催し、Mr. Lee Sanghun（APT管理委員会議長）を事務局次長候補として擁立することを正式に表明した。また、中国が2日目にランチを開催し、駐タイ王国中国大使から、Mr. Liu Zipingを事務局次長候補として擁立することを正式に表明した。なお、管理委員会の開

催期間中に、上記2か国以外に事務局次長に立候補を表明した国はなかった。

5. おわりに

今回の管理委員会では、2020年の選挙戦に向け、日本、韓国、中国が各々レセプションを行った。

韓国主催レセプションでは、在タイ韓国人学校の子どもたちによる韓国の伝統楽器の演奏及びタイ人ダンサーによるK-POPダンスが演出として披露され、中国主催ランチでは中華料理の提供とともに、中国のICT環境についての動画を放送する等、各国様々な手法でアピールしており、各国の参加者を楽しませていた。なお、日本主催レセプションでは、日本式お寿司（ホテルビュッフェで「sushi」として提供されていたものは海苔巻きのみであった）と揚げたての天ぷらの提供及び和太鼓とタイ太鼓の演出が参加者には大変好評であった。これらのレセプションを通して、各国独自の文化に触れ合う機会が参加者にとって印象深い体験になるのだと感じた。

2020年12月には日本でAPT総会が開催されることが決定した。また、2020年はオリンピック・パラリンピックが日本で開催され、国全体が活力ある雰囲気になるとと思われる。次期APT総会では、今回の管理委員会でのレセプション以上に、日本独特の文化や活力を演出し、参加者に日本での滞在を楽しんでもらえるよう準備していきたい。

最後に、APT事務局をはじめ、日本からAPT賛助加盟員として本会合にご出席いただいた方々、事前の対応等にご尽力いただいた関係者各位にこの場をお借りして深く御礼申し上げる。



■写真4. 和太鼓とタイ太鼓の演出